提出日 2022 年 8 月 24 日

長期戦略:テーマ 「国際化の推進」

Ⅱ.実施計画帳票

担当部署			
長期戦略テーマの責任者（統轄部署）	学長（総合企画部）	実施計画の担当部署	国際連携機構(TF 受入)

1. 実施計画

実施計画(タイトル)		取組開始	達成状況確認年度	学部・研究科での取組み有/無	帳票
1-(6)-⑤ (SGU2-2-1)	(SGU2-2-1) 受入留学生数 1500 人およびフュージョン(融合)の推進	2014 年度	2023 年度	必要なし	不要

内容

※本実施計画帳票は一部で今後の受入プログラムを再開していることを前提に記載している。

【受入留学生】

2013 年度(通年)、受入数約 900 人を 10 年後の 2023 年度(通年)に 1,500 人とする。

受入学生数の内訳については以下のとおりとし、主に短期プログラム開発による受入数の大幅な拡大を目指す。

1. 正規留学生

2013 年度 609 人から 2023 年度 650 人とする。学部学生数は 2014～2016 年度にかけて微減傾向、大学院生数は横ばいが続いているが、学部・研究科での新たな入試制度改革を推進し、優秀な留学生の確保に努める。

2. 海外協定大学からの交換学生

2013 年度 208 人から 2023 年度 415 人とする。海外協定大学が増加する中、交換学生受入プログラムを改編するなど、より多くの協定大学や学生のニーズに対応し、受入交換学生数の拡大に努める。

3. 短期プログラムの受入学生

2013 年度受入学生数 90 人から大幅に拡大し、2023 年度には 435 人(うち、「4. 学部研究科による短期プログラム受入学生」235 人を含む)を目指す。内訳は日本語学習プログラム 150 人、英語で日本について学ぶプログラムや学生交流セミナー50 人を目標とする。おもに協定大学からの学生受入を進め、受入数の大幅な拡大を図る。

4. 学部・研究科による短期プログラム受入学生

学部・研究科が開発するプログラムにより 2023 年度には 235 人の受入れを目標とする。

5. 融合(フュージョン)科目の本学履修者

受入れた留学生との本学学生が共に学ぶ機会「融合(フュージョン)」を正課教育/正課外教育の両面で促進し、正課科目として開講する融合科目の履修者を 2023 年度には 400 人を目標とする。なお、正課である融合科目での単位取得はダブルチャレンジ制度におけるインターナショナルプログラムの1タイプとして位置付ける

(SGU1-1 帳票も参照)。

6. オンラインによる受入プログラムの開発と整備

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、入国できない交換学生に対し、現代日本プログラムにおいてオンラインで行う授業科目を設定する。日本語の授業科目のオンライン化についても未入国の交換学生および正規留学生を対象に 2021 年度より実施している。なお、対面授業を実施する場合のオンライン授業との併用については今後検討する。また、短期プログラムは 2020 年度春季にオンラインで実施し、2021 年度以降については対面・オンラインの並行実施の可否を今後検討する。

【フュージョン(融合)】

受入留学生の増加に伴い、受入れた留学生と本学の日本人学生がともに学び合う「融合(フュージョン)」を正課教育／正課外教育の両面で推進する。正課プログラムはダブルチャレンジ制度におけるインターナショナルプログラムの1タイプとして位置付ける。

2020 年度から、①申込科目履修登録時期の検討(通常の科目申込時期と異なる時期に設定できないかを検討)、②総合日本学習科目の一部を申込科目から外して、一般履修科目とすることで、履修の阻害要因を検討する。2020 年度秋学期から COIL などオンラインによる融合科目の開発提供を行う。2021 年度から留学生と日本人学生が一定の履修者数の割合で共に学ぶ「多文化共修科目」を開講する。日本語パートナーの学習支援活動の一部科目化、開講の可否を、検討する。

進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式
指標1	外国人留学生数(総計)	各年度に正規／交換／短期留学生として受け入れた外国人留学生の数((通年、在留資格、学籍の発生や単位取得の有無等は問わない。詳細は SGU の定義に準拠)
指標2	正規外国人留学生数	各年度に受入れた正規外国人留学生の数(通年。5 月 1 日現在の在籍者に 9 月入学者を加算することで計上)
指標3	交換外国人留学生数	各年度に交換学生として受け入れた交換外国人留学生の数(通年。5 月 1 日現在の在籍者に 9 月入学者を加算することで計上)
指標4	融合日本人学生数	各年度に融合プログラムで単位を取得した日本人学生数(通年、延べ数、詳細は SGU の定義に準拠)

☆短期受入については別帳票(OWC 分は SGU2-2-2, 学部・研究科分は SGU2-2-3 を参照)

目標1＜指標1＞外国人留学生数(総計)

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
目標						1200
実績	920	1052	1115	1243	1292	1447
	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度以降	―
目標				1500		
実績	1152	1901				

目標2＜指標2＞正規外国人留学生数

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
目標	605	610	615	630	645	645
実績	613	594	587	623	664	774
	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度以降	―
目標	645	650	650	650		
実績	893	923				

目標3＜指標3＞交換外国人留学生数

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
目標	170	190	210	230	363	376
実績	231	282	315	311	311	358
	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度以降	―
目標	50(見込み)	395	405	415		
実績	64	69				

目標4＜指標4＞融合日本人数

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
目標	—	—	—	—	—	200
実績						218
	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度以降	―
目標	250	300	350	400		
実績	99	525				

2. 実施計画：ロードマップ：

☆上記指標を参照（ロードマップ記入不要）

		2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	策定段階					
	2023 年 3 月末段階					
		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	策定段階					
	2023 年 3 月末段階					
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	―
	策定段階					
	2023 年 3 月末段階					

3. 実施計画:費用計画・人員計画

☆本帳票では、当面、2019 年度以降の正規受入、交換受入、フュージョン(融合)推進のために OWC に必要な経費・人件費のみ計上する。

(理由:学部・研究科の経費等については当面は SGU 推進費で対応する。OWC の短期受入については別帳票(SGU2-2-2)で対応する。)

【費用・人員を必要とする理由】						
非公開						
経費	2014 年度 承認	2015 年度 承認	2016 年度 承認	2017 年度 承認	2018 年度 承認	2019 年度 承認
非公開						
人員・人件費	2014 年度 承認	2015 年度 承認	2016 年度 承認	2017 年度 承認	2018 年度 承認	2019 年度 承認
非公開						
経費	2020 年度 承認	2021 年度 承認	2022 年度 承認	2023 年度 承認	2024 年度以降	
非公開						
人員・人件費	2020 年度 承認	2021 年度 承認	2022 年度 承認	2023 年度 承認	2024 年度以降	
非公開						

4. 進捗状況・得られた成果

2016 年度	
2017 年度	－
2018 年度	－
2019 年度	－
2020 年度	－
2021 年度	－

5. 今後の課題及び方向性

2018 年度	融合科目の定義づけと科目開発を行う。
2019 年度	交換学生プログラム「現代日本プログラム」科目を主軸に、融合科目の拡充と体系化を行う。
2020 年度	Summer School や Winter School など海外協定大学向けの短期プログラムを整備・拡大し、日本人学生が外国人留学生と共修することのできる科目を整備する。
2021 年度	Summer School や Winter School など海外協定大学向けの短期プログラムを整備・拡大し、日本人学生が外国人留学生と共修することのできる科目を整備する。
2022 年度	本学開講の COIL 型科目の新規開発を全学的に推進し、日本人学生が外国人留学生と共修することのできる科目を整備する。 ポスト SGU に向けて、正規一般生の奨学金施策の整備とあわせて、正規外国人留学生に対する経済支援について授業料減免と本学独自の奨学金の制度を整備し、志願行動に結びつける。 日本語短期プログラムにおいてはすでに積極的に本学学生がボランティアとして授業に参画し「共修」が実現しているが、それらの活動に単位を与え科目化するには開講時期等での懸念がある。「共修」の実績としてきちんとカウントできる枠組みを整備していく。
2023 年度	水際対策緩和によって対面での留学生受入が可能になるため、短期プログラムの再開を進めるとともに、コロナ禍で有益な教育手段とみとめられた本学開講の COIL 型科目の新規開発を全学的に推進し、日本人学生が外国人留学生と共修することのできる科目を整備する。2021 年度から開講している「多文化共修科目」(日本語開講)の履修促進を行うとともに、国際教育・日本語教育プログラム室として多文化共生社会の実現に資する日本語教育学を軸とした副専攻カリキュラムの検討を行う。 ポスト SGU に向けて、正規一般生の奨学金施策の整備とあわせて、正規外国人留学生に対する経済支援について授業料減免と本学独自の奨学金の制度を整備し、志願行動に結びつける。

6. 学院総合企画会議の基本方針

2014 年度	○外注費(日本語短期プログラム等)については、蘇州大受入外注費用、SMU 受入外注費用、クレジットカード決済システム改修費用分として予算化を承認します。 ○広報用パンフレットについては、申請どおり予算化を承認します。
2015 年度	○外注費、広報用パンフレット等については、申請どおり計画を承認します。 ○調査費については、一般事業費ガイド予算で対応してください。
2016 年度	―
2017 年度	―
2018 年度	―
2019 年度	―
2020 年度	―
2021 年度	―
2022 年度	―

7. Total Review の結果

【フェーズⅠ(2019～2021)】

レビュー結果	可　否	備　考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」廃止:その理由と今後の方向性)
・受入留学生数を正規・交換・短期・融合科目と定め、目標値をクリアしている。 ・2021 年度からオンライン型授業としての開発・検討を行う。	継続 ・ 廃止	・受入留学生数 1500 人の目標達成 ・短期留学生向け VE／COIL 型オンライン授業の開発 ・正課の融合科目の確立

【フェーズⅡ(2022～2024)】

レビュー結果	可　否	備　考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	